

課題番号：GZ002
助成額：46百万円

グリーン・イノベーション

人文社会系

平成23年2月10日
～平成26年3月31日

CO₂削減と産業発展の両立を目指した企業経営・グリーンイノベーション・制度の探求

青島 矢一 一橋大学大学院商学研究所(イノベーション研究センター) 教授

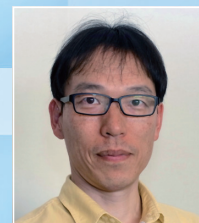
Yaichi Aoshima

専門分野
技術経営

キーワード
技術経営

WEBページ

<http://magicc.iir.hit-u.ac.jp>



研究背景

温室効果ガスの削減とエネルギー問題の解決が喫緊の課題となる中で、国民負担の少ない効率的な解決方法を見いだすだけでなく、長期的な産業発展と企業競争力の強化による経済価値の創出を通じた持続可能な解決法を考える上で、経営学者が貢献できると考えたことが背景である。

研究目的

環境・エネルギー問題を扱う多くの研究プロジェクトと異なり、経済性の確保と産業・企業競争力の両立を強く意識して、企業の現場に足を運び、「ミクロの視点」から、技術開発の実態や企業経営の実態に対する深い理解に基づいた研究を行うことに特徴がある。

実績

代表論文：International Journal of Global Business and Competitiveness, 7, 1, 1-13, (2012)
新聞：電気新聞「経済成長と両立を探る 一橋大シンポ地熱などテーマに」(2014年2月10日)
一般雑誌：経済界「一橋大学イノベーション研究センターが国際シンポジウムを開催」No. 989, 4.16号, p96 (2013年)

研究成果

再生可能エネルギー産業の競争構造と政策の裏の解明

太陽電池技術の汎用化と中国企業の急成長の実態とそのメカニズムを解明。さらにエコポイント政策やFITを題材に、太陽電池のように技術が汎用化したグローバルな産業では、安易な普及政策が、国民負担だけでなく、国内企業・産業の長期的な競争力を阻害するメカニズムを明らかにした。



中国のある太陽電池モジュール企業の製造工程。汎用化された非常にシンプルな行程であるが、大手ブランド向けに出荷している。

経済性の高いエネルギー・環境事業実現上の鍵の解明

地熱開発、廃プラ処理、火力タービンなどの調査から、環境・エネルギー産業が経済性を確立して発展するには、既存資源の巧みな多重利用が鍵となること、しかしそのためには、しばしば必然的に利害対立が起きるために、その調整メカニズムが必要になることを明らかにした。



アイスランドにおける地熱発電所の隣にあるリゾート施設：地熱エネルギーの多重利用が経済性の増大に寄与している。

2030年の 応用展開

リアルな経済計算、特に産業競争力への長期的な影響を十分に考慮した環境・エネルギー政策の立案が常識となっていることが期待される。また、企業が、補助金などの政策

的支援に踊らされることなく、冷静な事業戦略に基づき、環境・エネルギー産業でグローバルな競争力を獲得することが期待される。